

特集・都市と大学⑥

学園都市・八王子

① 八王子市における学園都市づくり

高野 国利

- ① 八王子市における学園都市づくり
- ② 山と平野の織りなす学園都市・八王子

- 一——はじめに
- 二——八王子市の現状と課題
- 三——大学等の立地の背景
- 四——八王子市の学園都市づくりのあゆみ
- 五——学園都市づくりの施策の展開
- 六——学園都市づくりの現状と新たな施策

一——はじめに

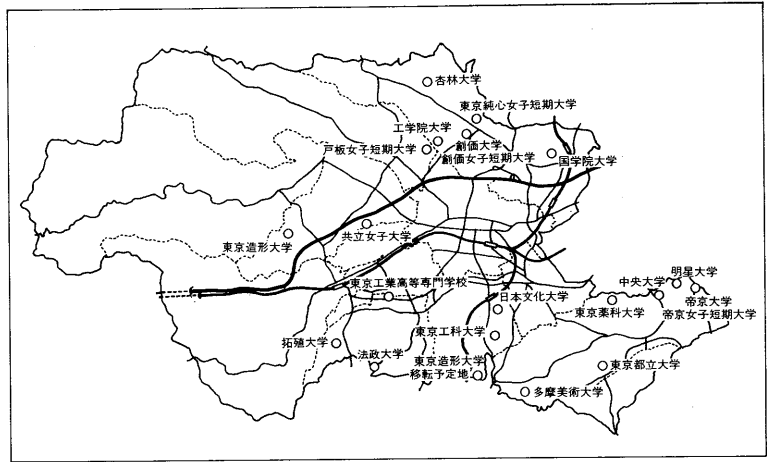
市内には現在二十一の大学等が立地している。学園都市・八王子はようやくその緒についたばかりであるが、大学誘致を図り、学園都市を目指そうとしている都市の担当者が本市を訪れることが多い。こうした時いつもこう申し上げる。「学園都市は今日・明日でできあがるものではなく、二十年先あるいは百年かかるかも知れない。八王子市もこれからですよ」と…。

それは、大学を中心に発展してきた都市もあれば、大学が立地して都市と大学が一体となつて発展している都市もあり、学園都市として成熟するにはそれなりに時間がかかる。また、筑波研究学園都市に代表されるように、計画的に新しい学園都市づくりに取り組まれている都市もあれば、文教都市のイメージを目指している都市もあり、目指す学園都市イメージも都市によっても違う。さらに、行政が街づくりに多くの問題を抱え、市民要望に答えきれない現状が

あると同様に、大学にも市民や行政から多くのことを要望されても答えきれない実情があることも理解しなくてはいけないと思う。

それでは、ようやくその緒についたばかりの本市の学園都市づくりですが、本市における大学の位置づけと学園都市づくりの活動状況及び課題や今後の取り組みに対する考え方を、市の沿革に触れながらご紹介したいと思います。

図一 八王子市内大学等位置図



二 八王子市の現状と課題

古くは、織物業を中心とした商業都市として発達し、面積百八十八㎢、人口現在約四十六万人、東京多摩地区の中心的存在となっている。国の業務核都市として、また東京都のマイタウン構想では多摩の「心」として位置づけられ

表一 八王子市に所在する大学等一覧

No.	大学名 (開設年月)	所在地	設置学部 (学生年次)	学生数			居住形態 市外の自宅 市外の下宿
				総数	男	女	
1	工学院大学 (昭38.4)	☎192 中野町2665-1	工学部(1~2及び4年次生の一部)	2,288人	2,157人	131人	1,181人 174
2	明星大学 (昭39.4)	☎191 日野市 程久保2-1-1	大学院 理工学部 人文学部 通信教育部	7,001	5,389	1,612	4,770 1,503 619
3	東京工業高等専門 学校(昭40.4)	☎193 梶田町1220-2	機械工学科 工業化学科 電気工学科 電子工学科 情報工学科	910	811	99	1 8,775
4	帝京大学 (昭41.4)	☎192-03 大塚359	大学院 経済学部 法学部 文学部 医学部(1~2)	14,300	11,065	3,235	2,603 1,093
5	帝京女子短期大学 (昭40.4)	☎192-03 大塚359	英文科 秘書科 専攻科	1,790	-	1,790	325 561
6	東京造形大学 (昭41.4)	☎193 元八王子町3-2707	造形学部	1,332	728	604	248
7	戸板女子短期大学 (昭41.4)	☎193 犬目町139	生活科	436	-	436	328
8	国学院大学 (昭42.4)	☎192 石川町2		-	-	-	-
9	東京純心女子短期 大学(昭42.4)	☎192 滝山町2-600	音楽科 美術科 英語科	469	-	469	245 34
10	杏林大学 (昭45.4)	☎192 宮下町476	大学院 保健学部 社会科学部 外国語学部(1~3年次)別科	2,758	1,928	830	1,673 187
11	多摩美術大学 (昭46.4)	☎192-03 \$水1723	美術学部	2,494	1,261	1,233	1,195 734
12	創価大学 (昭46.4)	☎192 丹木町1-236	大学院 経済学部 法学部 文学部 教育学部 経営学部	5,823	4,116	1,707	1,300 1,475
13	創価女子短期大学 (昭60.4)	☎192 丹木町1-236	経営科 英語科	641	-	641	222 21
14	東京薬科大学 (昭51.4)	☎192-03 堀之内1432-1	大学院 薬学部	2,224	1,334	890	1,066 551
15	拓殖大学 (昭52.4)	☎193 館町815-1	商学部 政経学部 外国語学部 工学部 (1~2) (1~4) (1)	5,849	4,934	915	3,099 829
16	中央大学 (昭53.4)	☎192-03 東中野742-1	大学院 法学部1・2部 商学部1・2部 経済学部1・2部 文学部1・2部	24,500	19,867	4,633	11,515 9,065
17	日本文化大学 (昭53.4)	☎192 片倉町977	法学部	897	788	109	734 34
18	共立女子大学 (昭54.4)	☎193 元八王子町1-710	家政学部 文芸学部 国際文化学部 (1~2)	1,727	-	1,727	1,136 139
19	法政大学 (昭59.4)	☎194-02 町田市相原町4342	経済学部 社会学部 工学部 大学院	6,781	5,460	1,321	3,706 1,395
20	東京工科大学 (昭61.4)	☎192 片倉町1404	工学部	1,612	1,550	62	935 250
計				83,832	61,388	22,444	市外居住者 63,729

※平成3年4月開校東京立大学☎192-03 南大沢1-1

(平成2年5月調査)

資料) 八王子市学園都市協議会
八王子市生活文化部文化課

ている。

市域は明治の森、高尾国定公園をはじめ四つの自然公園を擁する、豊かな自然環境に恵まれている。

言うまでもなく、こうした自然環境に恵まれた東京近郊の都市として、昭和四十年前後から高度経済成長と相まって住宅地の開発や工場、大学等の進出が進み、現在もなお多摩ニュータウン、八王子ニュータウン等の開発事業が計画的に推進されており、今後とも人口増加が見込まれている。

その結果御多分にもれず、人口急増による義務教育施設、生活関連施設整備に追われ、下水道、道路等の都市基盤整備や文化施設面での立ち遅れなど多くの都市問題を抱えており、さらに地域経済を活性化させ、都市の自立性を高めることなど克服していかなければならない課題や、本テーマである学園都市の形成など、二十世紀に向けた街づくりへの課題が山積みしている。

三——大学等の立地の背景

昭和三十八年工学院大学が最初に開校し、以来ほぼ毎年一校の割合で大学の進出が相次ぎ、現在二十一校の大学等が市街地を囲む丘陵部に

立地し、他の都市に類をみない大学群を形成する都市となった。

街づくりに大学は大切な核であり、大学誘致を何とか進めようと努力されている都市が今日多い中、本市は恵まれている。

その背景は昭和三十年代後半の高度経済成長と国の政策（昭和三十四年に制定された「首都圏の既成市街地における工業等の制限に関する法律」が代表的政策）から大学等教育機関の地方分散を図ろうとしたものである。

八王子に立地した大学は、必ずしも市が計画的に誘致したのではなく、市が行政的に土地の斡旋等をしたのは、国立の東京工業高等専門学校ただ一校であり、他はすべて大学独自の意思決定により立地したものである。したがって、取りつけ道路・上下水道の整備等すべて大学の負担で行われ、市は大学の進出に伴う直接の財政負担を行ってはいない。

ここ八王子を中心に多摩地区には多くの大学等が移転立地したが、特に八王子市に移転が集中した理由として大学関係者の話などから次のことが挙げられよう。

移転先選定の目安として都心から西方五十km、東方三十km圏内が考えられていたようである。

八王子市は：

- (1) 都心から四十kmにあり、交通機関も多かつ

たこと

（都心からJRR中央線、私鉄京王線が入っている）

- (2) 自然環境の良さ

（キャンパス環境として最適であり、そこに国の文教政策と大学の教育・研究機関の改善意欲が一致したこと）

- (3) 昭和三十年代後半から四十年代前半、廉

価で、かつ広大なまとまった土地が比較的容易に確保できたこと。

- (4) 東京都内であり、東京の大学というイメージに合うこと

以上のような理由によるものである。

四——八王子市の学園都市づくりのあゆみ

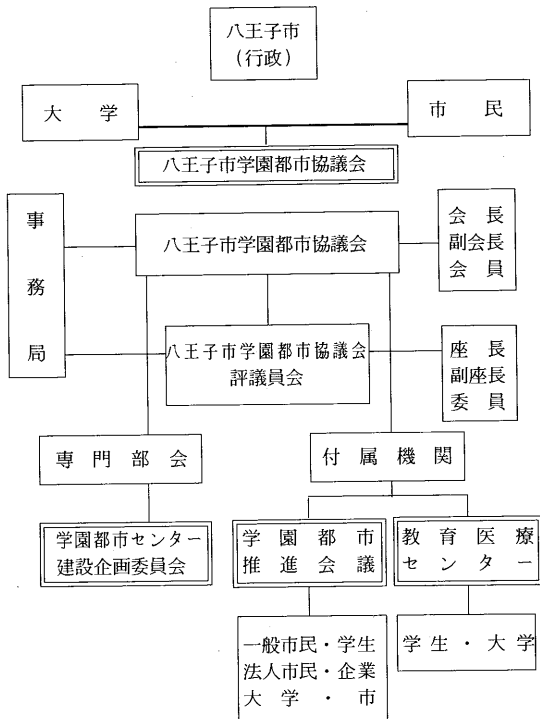
①—基本構想での位置づけ

本市の基本構想では学園都市づくりを「明日をひらく教育・文化・学園都市」として都市像の一つとしてかけ、大学によるまちづくりを都市機能確立のための重要課題としている。

大学などの高度教育研究機能を、市民共有の財産として、大切に活用していこうというのが八王子市の学園都市づくりの基本である。

そして、大学等の持つ専門的な知識や機能を行政や産学共同研究などに活かし、文化や産業

図一 八王子市学園都市協議会組織図



の振興を図る。さらに学生の地域活動への参加を求め、その活力と行動力をまちづくりに活かし、風格のある学園都市へと発展させていくことを目指しているものである。

② 学園都市づくりの推進組織

本市の場合大学の進出が始まった当初から、学園都市づくりを意識していたわけではなく、昭和五十二年中央大学の学生二万五千人（当時は一万三千人）の進出を機に行政・企業・住民の間に学園都市づくりの気運が高まり、行政が中心になって大学との結びつきを強め学園都市づくりがスタートした経過となっている。

⑦ 八王子市学園都市協議会

具体的な展開としては、昭和五十二年「八王子市学園都市協議会」（発足時の名称は八王子市大学連絡協議会）が発足した。

八王子市内にキャンパスを有する大学と市民及び行政の代表者から構成され、三者の相互理解のもとに学園都市づくりを推進する上で必要な協議・研究調査を行うことを目的としており、協議会の運営費は八王子市及び大学からの負担金で賄っている。

⑧ 八王子市学園都市推進会議

八王子市学園都市協議会の付属機関として昭和五十五年には、この協議会の活動

目的を推進するための実施機関として市民による「八王子市学園都市推進会議」（発足時の名称は八王子市学園都市友の会）が組織された。学園都市推進会議は会員組織の形態をとっており運営費は会員の会費をもって原則的に運営されることになっているが、上部組織の学園都市協議会からの補助金と企業等からの賛助金

表一 八王子市学園都市協議会の構成

八王子市	市長 教育長	
八王子市議会を代表する者		2名以内
大学を代表する者	各大学	1名
協議会評議員会を代表する者		1名
学園都市推進会議を代表する者		1名
	商工会議所を代表する者	1名
	商店会連合会を代表する者	1名
八王子市内の公的団体を代表する者	文化団体を代表する者	1名
	体育団体を代表する者	1名
	その他、会長が認めた団体	若干名
学識経験者		2名以内

事務局…八王子市役所生活文化部文化課内

で賄っている実情である。なお、役員として行政のほか大学関係者も加わっている。

(会員)

正会員 ア 法人会員
イ 個人会員

特別会員 八王子市及び市内の各大学等高等教育機関

準会員 市内の各大学等高等教育機関に在学する学生及び市内在住の大学生

(会費)

正会員（年会費）個人千円 法人一万円
(事務局)

八王子駅ビル内（専従職員一人）

TEL 0426(23)0987

⑤教育医療部会（教育医療センター）

八王子市学園都市協議会の付属機関協議会に加盟する大学に在学又は市内在住の大学生の疾病、負傷若しくは死亡又は損害について救済し、安定した学生生活の確保と維持増進を図ることを目的に昭和六十三年に設置。

加入大学及び学生数 八大学 八千六百七十人（平成三年五月現在）

会費 年間 八千七百五十円

（事務局）

カレッジタウン内 TEL 0426（42）8266

⑥八王子市大学連絡会

八王子市に設置する大学、短期大学及び高等専門学校間の相互の交流と連携を図り、共通の課題について研究と調整機能の役割をはたすこと及び八王子市と緊密な連携の下に学園都市形成に係わる諸問題について、研究調査、協議推進することを目的として昭和六十二年に設置。

代表幹事校 共立女子大学

五——学園都市づくりの施策の展開

八王子市の学園都市づくりの要として「八王子市学園都市協議会」及び「八王子市学園都市推進会議」の両組織は次の様な活動を展開して

いる。

⑦八王子市学園都市協議会の事業

- (1) 学園都市形成のための文化の向上及び創造に関する研究
- (2) 大学と地域住民の連携を深めるための公開講座の開設等の企画
- (3) 市と大学で共催する文化的行事の企画
- (4) 大学の地域に与える影響等についての調査研究
- (5) 大学及びその周辺における環境整備等についての研究
- (6) 学生の相互共済の精神に基づく共済制度の実施

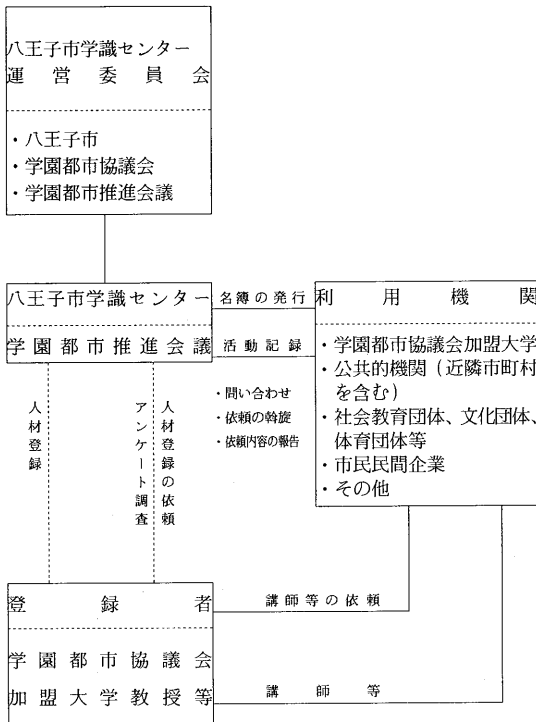
⑧八王子市学園都市推進会議の事業

八つの委員会に分かれて次の様な活動を行っている。

- (1) 市民一日大学の開催

市内の大学を会場（持ち回り）に、大学の特徴を生かしたテーマのもと開催し

図—3 八王子市学識センター実施フロー



ている。

- (2) 公開講座等の開催
- (3) 八王子市学識センターの運営
昭和六十一年に大学所属教員の協力を得て設置したもので、八分野に四百八十六人の教授等が登録されている。文化活動や勉強会に企業の教育研修や共同研究等に紹介している（その実施フローは図—3のとおり）。
- (4) シティインデックスの発行
毎年、各大学の新生に無料配布し、八王子市を紹介する。
- (5) 入試時短期下宿制度

受験時の際に市民から住宅の提供を受け、学生に短期下宿として紹介している。

(6) 奨学金制度

学生の学術の向上と地域及び産業界に対する認識を高めることを目的として毎年十人の学生に支給している。

(7) ビッグウェスト・ベースボール大会の開催

学生の野球大会「八王子大学軟式野球連盟」を通じて、大学間の交流はもちろん、市民との交流を目的として開催している。

その他、文化講演会・留学生との交流会等を独自に行っているほか、他団体に協力し、音楽祭やビデオコンテスト等を行っている。

更に、本年度は学園都市ならではのイベントとして「ビッグウェスト学生フェスティバル 91」をこの五月二十四、二十五、二十六の三日間中心市街地を中心に開催し、新入生歓迎の意味も含め学生の手による落語会・絵画展・お茶会・音楽会等を行い、ゆくゆくは八王子の三代祭りにと意気込み取り組んでいる。

以上、学園都市づくりを目指す推進組織の施策について紹介しましたが各大学では独自の市民向けの公開講座を開催しているほか、聴講生の受入体育施設の開放等地域に開かれた大学づくりに積極的に取り組まれている。

また、行政の各種審議会や委員会等にも各大学の先生方の参画を得ているほか、文化課で行っている「彫刻のまちづくり」事業においても美術系の大学に彫刻制作の協力をいただいている。

六——学園都市づくりの現状と新たな施策

① 現状

創造的学園都市づくりを目指し、様々な事業を実施しているところであるが、大学の立地が地域の文化等諸活動の中心的存在として、その機能が十分生かされているとはいえない。

しかし、数年前にくらべ街の中に学生の姿が目立つようになり、華やいだ雰囲気が感じられるようになってきたのも事実であり、また各種団体でも様々な学園都市づくりに向けた事業が展開され、大学と地域との交流も次第に活発となり、学園都市として一步一步前進していることが実感として感じられるようになってきた。

大学教職員の市内在住率は二四％と低く数年前に比べても変化がないものの市内に居住する大学生が年々少しずつではあるが増えてきている。また、市民の意識も昭和五十八年の「大群形成と地域社会に関する調査」では、半数以上が大学ができて良かったと答えている。理由としては街に活気が出る、地域の文化が向上す

る等を挙げている。それと、平成二年度の世論調査では、まちづくりの項目で、八王子を紹介する時どのようなことで有名な街と紹介するかの問いに、学園都市との答えが二番目に挙げられている。

さらに近年、大学への外国からの留学生が目立ってきている。八王子市では平成元年度より外国人留学生に対する奨学金の交付を行っているが、その数も年々増えてきており、開かれた国際学園都市へと向かい始めている昨今だが問題点もある。

(1) 大学の立地が周辺部の市街化調整区域に散在していること

- ・大学のまわりに学生街が形成されない。
- ・大学相互の交流が大変困難な状況にある。

(2) 道路整備の立ち遅れ

- ・朝夕のラッシュ時の著しい交通渋滞で学生・教職員の通勤・通学に大きな不満となっている。

(3) 学生にとって日常生活面で魅力ある街づくりになっていない

- ・中心市街地商店街が魅力に欠けるほか、文化施設の整備の遅れ
- ・学生のアルバイト先が少ないとも言われている。

(4) 大学施設の開放等、大学の持つ機能が十

分地域に還元されていない

・これは大学の理解を得ることが大前提の課題であるが、市民への広報活動も十分に行われていないこともある。

以上のような問題点と、特徴として大学が東部地区に集中し、学生総数の六二%の学生が通っており、市街地と結びつかないこともあげられる。(帝京・帝京女子短大・明星・中央・東京薬科・多摩美術大学)

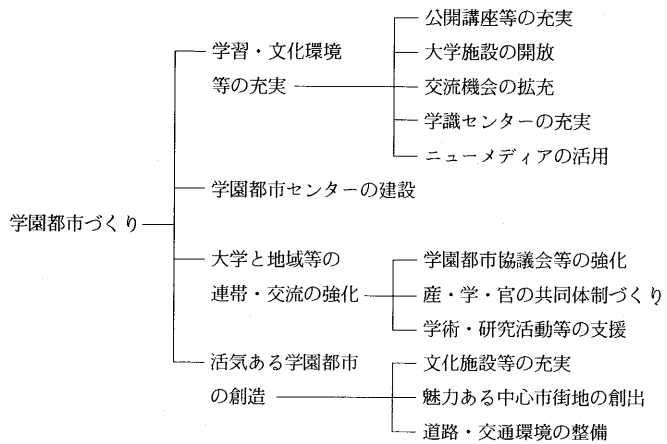
② 新たな施策

今日生涯学習に対する市民の関心が高まり、市民がいつでも自由に、しかも身近な場所で学習できるように大学が広く地域に開かれることが求められている。

このため大学当局には地域への大学機能の開放をさらに働きかけるとともに、行政の役割として交通体系の整備、中心市街地の活性化、文化施設の整備等を積極的に促進し、また、広く市民の学園都市づくり事業への参加を呼びかけるほか広報活動を行うなどソフト・ハードの両面から大学・市民・行政との連帯を今後より一層強め、真の学園都市づくりを目指し、各種施策を推進していく必要がある。

本市の基本計画では、今後取り組むべく施策として次の様な計画を掲げている。

表-3 施策の体系——平成元年～10年内の10カ年計画



⑦ 学習・文化環境等の充実

(1) 他の施策との連帯を図りながら、多様化する市民の学習意欲に応えるため、各大学の特色を活かして、市民がいつでも、どこでも学ぶことができるよう、公開講座などの学習機会の場を提供するとともに、情報の提供に努める。また、大学との協力関係のもとに、大学の聴講生制度、社会人受入制度、研究生・研究員受入制度などの拡充

に努める。

(2) 市民の自主的な学習、文化、コミュニティなどの活動を援助するため、大学の図書館や運動施設などの開放を一層促進し、地域文化やコミュニティ活動の場としての拠点性を高める。

(3) 地域の文化的行事、福祉ボランティア、青少年の健全育成活動などへの学生の参加を呼びかけるとともに、各種イベントへの企画段階からの参画を促し、学生と市民との共同によるコンサート、スポーツ大会などを開催する。

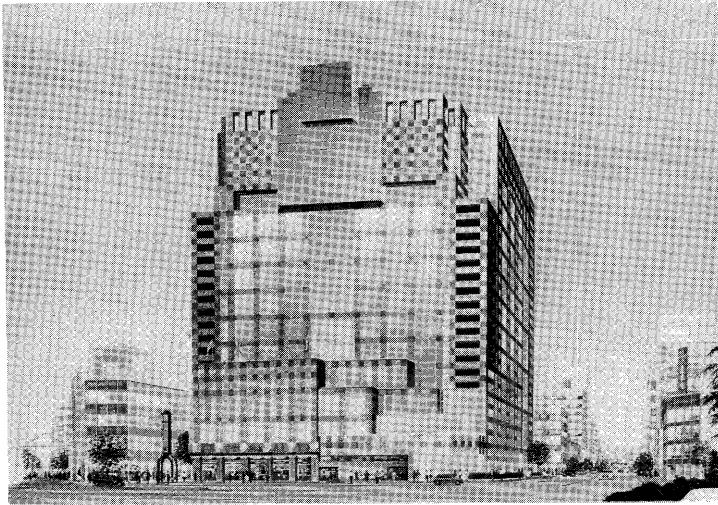
(4) 学識センターを充実し、市民の学習活動や企業の教育、行政の審議会・調査会の委員、企業と行政との共同研究などの分野で幅広くその活用を図る。

(5) ニューメディアなどの情報手段を有効に活用して、大学図書館と公立図書館とのネットワーク化やCATVを通して学習講座を提供する。

⑧ 学園都市センターの建設

教育・文化機能、学術研究、交流機能、アルバイト・就職・生活などの情報提供機能などを備えた学園都市センターを八王子駅北口再開発ビル内に建設し、学園都市にふさわしい広域性の高い交流活動拠点とする。

学園都市センター完成予定図



施設の概要——八王子駅北口再開発ビル内

十一〜十三階

専用面積三千㎡

施設内容としては、アクティ

ブホール・ギャラリー・セ

ミナー室・学園情報プラザ

他

建設スケジュール——平成三・四年度 基

本設計・実施設計

平成五・六年度 整

備・建設

平成六年度中開設予

定

② 大学と地域等の連帯・交流の強化

(1) 大学と市民と行政の相互理解と連帯を図る学園都市協議会及び学園都市推進会議を充実強化し、創造的学園都市の形成を目指すための研究調査や大学と地域の交流を深めるための事業を推進する。

(2) 大学、行政、企業のそれぞれの間の共同研究体制づくりを進め、相互の交流を深めながら地域課題、技術開発、行政課題など多様な研究を行い、その研究成果を都市づくりや地域経済の発展に活かすように努める。

(3) 大学の国際会議・その他学会、大学事業などに対し、側面から支援する。

③ 活気ある学園都市の創造

(1) 市民文化センター、図書館、公民館などの教育文化施設を活用して、学生や市民の文化活動の場を提供し、相互のふれあいと交流を深める。

(2) 中心市街地に商業、業務、文化、情報などの都市機能を高めながら、学生のニーズに合った魅力ある商店街やふれあいと交流

の場を創出する。

(3) 道路や交通体系を整備し、大学間、大学と中心市街地を結ぶ交通条件の改善を推進する。

以上、申し上げたように、本市の学園都市づくりは少しずつ動き始めたところであり、今後どのようにして大学の立地を活かして、地域文化や地域産業の振興に結びつけていくかが大きな課題であるが、これだけの規模で全国から若者が集まってくる都市は他にはない。その若い力を中心とした新しい八王子の文化を創造するにふさわしい環境を整備するとともに、大学側も市民に親しまれる大学の実現のため、努力を重ねられているし、市民の学園都市としての意識も次第に高まってきており、行政もこの恵まれた条件を活かしてさらに真の学園都市づくりに向けて努力していきたい。

△八王子市生活文化部文化課学園都市づくり担当主査▽